夕刊 讀賣新聞 【朝夕刊まとめ定価4400円（本体価格4074円＋消費税326円）】1部売り朝刊150円・夕刊50円

終末期 自宅で家族と

コロナ下 病院など面会制限

新型コロナウイルスの感染拡大で、在宅医療が注目を集めている。病院や介護施設での面会が制限されるようになり、一緒に過ごす時間を大切にしたいと考える終末期や慢性期の患者や家族が増えている。オンライン診療など、患者や医療従事者の感染リスクを軽減する仕組みも生まれた。（島田愛美、手嶋由梨）

在宅医療を受ける牧スミ子さん（左）に語りかける妹のミツ子さん。誕生日に贈られた花束に表情が緩んだ（15日、福岡市中央区で）

赤やピンクの春の花束が、ベッドサイドで揺れた。「姉さん、おめでとう」。今月15日、福岡市中央区の牧ミツ子さん(81)は、自宅で静かに横たわる姉の牧スミ子さん(88)に語りかけた。老衰で寝たきり生活を送るスミ子さんは、この日が米寿の誕生日。花束は週に数回往診する同区の「福岡みなと在宅医療クリニック」の看護師が準備してくれた。

スミ子さんは昨年7月、肺炎のため市内の病院に入院。だが、感染防止のために面会は禁止され、ミツ子さんは病室の外から様子をうかがうことしかできなかった。病院からは「退院すれば1週間もたない」と言われたが、「少しでも一緒に」というお互いの思いを優先し、9月に退院した。

自宅では、在宅医療を専門にする同クリニックに往診を頼んでいる。採血や問診、薬の処方やリハビリもしてもらう。スミ子さんの体調は安定し、誕生日の朝は、少量だが好物の赤飯を食べることもできた。

「老老介護で不安もあるが、すぐに手を握ることも、顔を見ることもできる安心感がある」とミツ子さんは言う。

同クリニックでは、昨年の患者数は月平均約90人で前年の1・5倍に、みとりの数も年間62人と4倍に増えた。中堀亮一院長(38)と非常勤の医師、看護師が24時間対応している。中堀院長は「入院と同等の処置・検査ができる。見慣れた場所で家族と過ごすことは、身体的、精神的に患者に良い影響を与える」と話す。

＜在宅医療における新型コロナ対策の例＞

▽外来患者と在宅医療に従事するスタッフは可能な限り分ける

▽防護服の着脱は、自宅や施設の玄関または玄関を出てすぐの場所で行う

▽陽性疑いの場合、体温計や血圧計は療養者宅のものを使用するのが望ましい。医療機関から貸し出す場合は、療養者専用とする

（日本在宅医療連合学会作成のQ&Aより）

オンライン診療 活用も

厚生労働省の2018年の調査では、7割の人が自宅で死期を迎えることを希望している。一方で同年の別の調査では、実際に自宅で亡くなった人の割合は約13％にとどまった。

ただ、在宅医療でも感染リスクの不安はある。認知症高齢者らの在宅医療を専門とする福岡市東区の「たろうクリニック」では、患者が発熱した場合、防護服やゴーグルを着けた看護師だけが訪問し、医師は「オンライン診療」を活用している。スマートフォンを使ったテレビ電話で患者に症状を聞き取り、看護師にPCR検査を含め、必要な処置の指示を出す。

院内感染への不安から通院を控える患者が増えており、国は昨年4月、全ての患者がオンライン診療を初診から利用できるようにした。ただ、スマートフォンやタブレット端末を持っていない高齢者も多いため、同クリニックでは看護師が医師と患者のコミュニケーションを仲介する役割を担っている。

約1000人の患者がいる同クリニックでも、コロナ禍前に比べ、希望が増えているという。「患者さん本人が、過ごしたい場所で過ごせることが在宅医療の強み」と内田直樹院長(42)。一般社団法人「日本在宅ケアアライアンス」理事長の新田国夫医師は、「病院で治療し、自宅で療養をする医療体制が進めば、感染流行期の病床不足の解消にもつながるかもしれない」としている。

市街地の近くで延焼が続く山火事（24日午前9時29分、栃木県足利市で、本社ヘリから）＝守谷遼平撮影

山火事 72世帯避難勧告 栃木

栃木県足利市中心部近くの両崖山（251メートル）で山火事が発生し、延焼が続いている。21日に発生した後、県の防災ヘリなどが散水を続けているが、24日午前11時時点で鎮火していない。市は23日午後、近隣の72世帯に避難勧告を出した。けが人や民家への被害はない。

両崖山は同市西宮町にあり、市役所から北に約2キロ。市などによると、21日午後3時35分頃、「山林が燃えている」と登山者から119番があった。県や陸上自衛隊のヘリなどが散水しているが、24日午前8時半時点で少なくとも10ヘクタールを焼いたという。

宇都宮地方気象台によると、県内には16日から乾燥注意報が出されていた。23日は県内全域で強い風を記録し、市は同日午後、延焼が拡大する恐れがあるとして避難勧告を発令し、市内2か所に避難所を開設。17世帯31人が一夜を明かした。

ヘリによる消火活動は強風で一時中断したが、23日午後に再開。同気象台によると、県内の乾燥注意報は25日にかけて続くという。